

学校名：安芸太田町立筒賀小学校

授業者：西廣 直明(筒賀)
 佐々木 結唯(戸河内)
 佐々木 かおり(上殿)

教材作成者：河本 聖志

授業日時	2021年1月21日	教科・科目	生活科
学年・年次	1年	児童生徒数	20名 筒賀小11名 戸河内小6名 上殿小3名
実施内容	ふゆをたのしもう (ふゆのあそびずかん/たこあげあそび)	本時/この内容を扱う全時数	4/6
教科書及び教科書会社	どきどきわくわく あたらしいせいかつ 東京書籍		

<p>授業のねらい (本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか)</p> <p>室内遊びがメインになりがちな冬の遊びの幅を広げることを大きなねらいとする。 1年生の子供たちは風(空気)を使って遊ぶという意識が低い。従ってその意識をしっかりと持たせるため、徐々にダイナミックさを増しながら風を使った遊びに取り組みさせる。具体的には ①かざぐるま②くるくるだこ③ダイヤだこ という順である。 その上で空高く上がるというダイナミックさと、お正月の伝統遊びという特性から「たこあげ名人になろう」と目標付けを行う。主体的に学びに向き合わせるため、事前に失敗体験をさせ、よりよくあがるたこを作りたいという思いを持たせるように仕組む。そして本時では対話や交流を通してよりよくあがるたこを作るためのポイントをつかみ、自分のたこを改良していく活動につなげていく。 また、幼保小連携の観点から、保育所園児との交流活動に発展させていくなど、各校の実態に応じた取り組みにつなげていく。</p>
<p>メインの課題 (授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題)</p> <p>風を受けてよりよくあがるたこをつくるにはどうしたらよいか。</p>
<p>児童生徒の既有知識・学習の予想 (対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。)</p> <p>風(空気)を使って遊ぶという体験は少なく、意識も低い。また、たこあげに関する体験もまばらで知識も少ない。このような実態の児童にたこを作ってあげるとい活動させることで、うまくあがる場合とそうでない場合があるという事実を認識させ、どうすればよりよくたこがあがるのかという意識を持たせておく。</p> <p>事前にうまくたこがあがった児童の学びの深化…エキスパート活動やジグソー活動を通してたこ作りのポイントを整理し、他の児童に教えられるほど理解している。</p> <p>事前にうまくたこがあがらなかった児童の学び…エキスパート活動をもとに、うまくあがらなかった原因を探り、自分のたこを改良する活動に生かしている。</p>

期待する解答の要素 <small>(本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準)</small>	
<p>材料について…より扱いやすく、何度でも試行錯誤できるように今回はビニールを使わず A3 のコピー用紙 3 枚と竹ひご、たこ糸で作れるようにする。</p> <p>◎ダイヤだこは、紙と竹ひご、たこ糸を使って作ります。</p> <p>①竹ひごは、角と角をつなぐようにつけます。なぜかという、そのほうが強いからです。【そのほうが風をよく受けるからです】</p> <p>②糸は竹ひごが×になっているところにむすびます。なぜかという、そのほうがバランスがいいからです。【そのほうがかたむかないからです】</p>	
各エキスパートプラン <small><対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください></small>	
<p>1 年生児童に書き文字情報としてエキスパート資料を渡し、理解させることは極めて難易度が高いため、エキスパートは次の 2 種類とし、資料ではなく活動とする。</p> <p>エキスパート A…小さなたこの模型を使ってバランスの良い糸のつけ方について理解させる活動である。A:竹ひごが×になったところに結んだもの B:竹ひごが×になっていないところに結んだもの を用意し、ぶら下げて比較することでどちらがよりバランスが良いかをつかませる。(筒賀小担当)</p> <p>エキスパート B…小さなたこの模型を使って丈夫で安定した竹ひごのつけ方について理解させる活動である。A:角と角がつながっている十字のもの B:角と角がつながっていないもの を用意し、比較させることでどちらがより丈夫で安定しているかをつかませる。(戸河内・上殿小担当)</p>	
シグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容	
<p>自分のたこの改良作業につなげる。たこができたなら、外であげてみるとともに、うまくいかない時は、自分達で改善し、より揚がりやすいたこを作っていく。コツがわかってきたら素材をビニールに変えても良い。</p>	

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
事前	かざぐるまやくるくるだこをつくって遊ぶ。(2h)	うまく回したりあげたりするには風や空気の揚力を使えばよいことを体験的に理解する。
事前	材料を自由に使ってダイヤだこを作り、たこあげ遊びをする。(2h)	うまくあがる場合とそうでない場合があることを知る。【失敗体験】
本時	たこの作り方について学習し、たこ作りのポイントを理解する。 自分のたこをどのように改良すればよりよくあがるのか考える。(1h)	2つのポイントを理解し、それをもとに自分のたこの改良ポイントを整理している。
次時	自分のダイヤだこをよりよくあがるように改良したり練習したりする。(1h)	学習したことをもとに、教え合いながらたこあげにチャレンジしている。

上記の一連の学習で目指すゴール <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながらたこを作ることができるとともに、たこあげを楽しむことができる。 ・たこだけでなく、色々なおもちゃを作ってあそんでみようとする意欲が育っている。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分 3分	①事前のたこあげ遊びの様子を動画で視聴し、うまくいかなかった場合があったことを想起する。 ②今日のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ◎よりよくあがるたこをつくるポイントをつかもう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 導入は筒賀，戸河内，上殿小各校それぞれで行う。その場合の支援として動画に限らず写真などの視覚支援で想起させる。 うまくあがらなかったたこはどうすればうまくあがるようになるのか知りたいという意欲を高める。
10分	③エキスパート活動に取り組む。 【エキスパート A】(筒賀小担当) 糸の結び方について。 【エキスパート B】(戸河内・上殿小担当) 竹ひごの貼り方について。	<ul style="list-style-type: none"> 各校それぞれでエキスパート活動を行い，ポイントが説明できるようにしておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto; text-align: center;"> ICT 活用(ZOOM) </div>
10分	④ジグソー活動に取り組む。 ・筒賀小と戸河内，上殿小の児童をペアリングして ZOOM でつなぎ，自分たちが得たポイントを教え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ZOOM はエキスパート活動中にログイン，ペアリングを済ませておく。その際，情報教育担当教員やICT支援員を活用し，児童は ZOOM がつながった状態から画面越しに相手を確認，対話するようにする。
15分 2分	⑤クロストークを通して，たこ作りのポイントをまとめる。 ・ほねは，角を結ぶようにはる。 ・糸は，ほねが×になっている所に結ぶ。 ⑥今日分かったことを生かして自分のたこを改良していく活動につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> なぜそうすることが良いのか，理由を問いながらファシリテートし，理解を深めさせる。 自分のたこの作り方と関連付けながら改良ポイントについて考えさせることで，次時への意欲を高める。